

第9回（平成15年度） 水にかかわる生活意識調査 集計概要

ミツカン水の文化センター（事務局：愛知県半田市中村町2-6 ミツカングループ本社 広報室内）では、本年6月下旬に、東京圏、大阪圏、中京圏の在住者620名を対象に、平成15年度「水にかかわる生活意識調査」（通算第9回）を実施しましたが、このほど有効回答554票の集計結果がまとまりました。

「水にかかわる生活意識調査」は、日常生活と水とのかかわり、生活者の水にかかわる環境意識、水と日本文化などについてアンケート形式で調べることにより、“生活者の実感としての水”“一般人がイメージする日本の水の諸相”を明らかにしようというものです。

1995年に第1回目の調査を実施して以来、ほぼ同じ内容で毎年6月に行っており、今回が9回目になります。

「ミツカン水の文化センター」と「水にかかわる生活意識調査」について

ミツカングループは1804年（文化元年）の創業以来、酢の醸造を社業の中心としてきました。酢の製造に水は欠かせないものであり、ミツカングループは水の恩恵を受け、水によって育てられてきたといっても過言ではありません。それだけに、ミツカングループの水に対する関心は創業当時から一貫して高いものでありました。

1999年1月には、「水の文化」に関するさまざまな研究や情報交流活動を推進していく母体として「ミツカン水の文化センター」を設立。「アジアの水辺から見えてくる水の文化」「舟運から都市の水の文化を探る」などのテーマを掲げて研究事業を推進し、すでにいくつかの成果をあげています。

「水にかかわる生活意識調査」も「ミツカン水の文化センター」の活動の一環として実施しているもので、研究事業の、そして一般生活者の啓発活動の基礎資料として有効活用していきます。

【この件に関するお問い合わせ先】

ミツカン水の文化センター 事務局

〒475-8585 愛知県半田市中村町2-6 株式会社ミツカングループ本社 広報室内

TEL.0569-24-5087 FAX.0569-24-6353 <http://www.mizu.gr.jp>

* 第1回(1995年)～第8回(2002年)「水にかかわる生活意識調査」の集計概要は、上記HPで紹介しています。

【調査概要】

- 調査テーマ : 第9回(平成15年度)「水にかかわる生活意識調査」
調査対象数 : 620票
有効回答数 : 554票(有効回答率89.4%)
調査対象者 : 東京圏(東京、千葉、埼玉、神奈川)、大阪圏(大阪、兵庫、京都)、中京圏(愛知、三重、岐阜)に居住する20歳代から60歳代の男女
調査方法 : ファックスで調査票を送付し、ファックスで回収
調査期間 : 平成15年6月11日(水)～6月17日(火)
有効回答内訳(人):

	東京圏		大阪圏		中京圏		合計		
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	小計
20代	38	33	18	16	20	21	76	70	146
30代	36	31	18	17	16	13	70	61	131
40代	33	35	18	17	16	17	67	69	136
50代以上	39	36	18	16	16	16	73	68	141
合計	146	135	72	66	68	67	286	268	
	281		138		135		554		

【集計結果の抜粋】

日常生活と水

- 4 頁 3 割以上の子供が『プール以外で泳いだことがない』
- 4 頁 大人は『泳ぐならば海や川』が『プール』をやや上回る
- 5 頁 思い出に残る水遊びは『小学校』の頃、『海』で、『水泳』をしたこと
- 6 頁 思い出に残る水遊びは7 割近くが『したいが、最近はしていない』
- 6 頁 水にかかわることで子供に伝えたいのは『生き物が豊かな水辺の大切さ』
- 7 頁 子供の頃の印象深いふるさとの風景は『田んぼ』が圧倒的トップ
- 7 頁 好きな水辺は『溪流・滝』『海の砂浜』など
- 8 頁 『散歩』『風景・景観』『のんびり』...都会人が水辺でしたいことトップ 3
- 8 頁 水のありがたさを感じるのは『給水制限が行われているとき』

水にかかわる環境意識

- 9 頁 8 月 1 日「水の日」の認知率はわずか 5.8%
- 9 頁 今年の 3 月に「世界水フォーラム」が開催されたことを知っていたのは 34.1%
- 10 頁約 65%が『家の近くの水辺環境は汚くなっている』
- 10 頁 水に対する不安は『飲料水や生活用水の悪化』『化学物質による水質汚染』など
- 11 頁 きれいで安全な水を残すためには大切なのは『家庭の汚水を排水しない努力』
- 11 頁 『排水口からゴミを流さない』は 9 割以上の家庭で実施
- 12 頁 7 割近くの家庭で、多少なりとも節水や水の使いまわしを実施
- 12 頁 具体的な節水方法は『歯磨き中に水を出しっぱなしにしない』など
- 13 頁 『使っている水の水源地を知っている』は 5 割強

生活文化と水

- 14 頁 水とかかわりの深い日本文化は『酒造り』『稲作』『茶道』
- 14 頁 約 6 割が『居住地で水に関して誇れることはない』
- 14 頁 居住地で水に関して誇れることのトップは『川』
- 15 頁 半数以上が『誇れる場所はずっと誇れる場所のまま変わらないと思う』
- 15 頁 もっとも自然が残っていると考える日本の川は 7 年連続で『四万十川』
- 15 頁 水辺の自然がもっとも損なわれていると思うのは『東京』『大阪』
- 16 頁 水の都でイメージするのは『大阪』『京都』『仙台』

水道水と飲用水

- 17 頁 水道水は 10 点満点で 6.5 点、中京圏では 7.1 点
- 17 頁 水道水への不満は『おいしくない』が 6 割、中京圏では比較的高い評価
- 18 頁 一番おいしいと思える水は『湧き水』
- 18 頁 日常生活でよく飲む飲料は『自分で入れた日本茶』
- 19 頁 災害で水道が止まったときは『行政等の救援を期待』
- 21 頁 水の供給県として思い浮かぶのは...東京圏では『長野』、大阪圏では『滋賀』
- 21 頁もっともおいしい水が飲めるのは...9 年連続で長野県

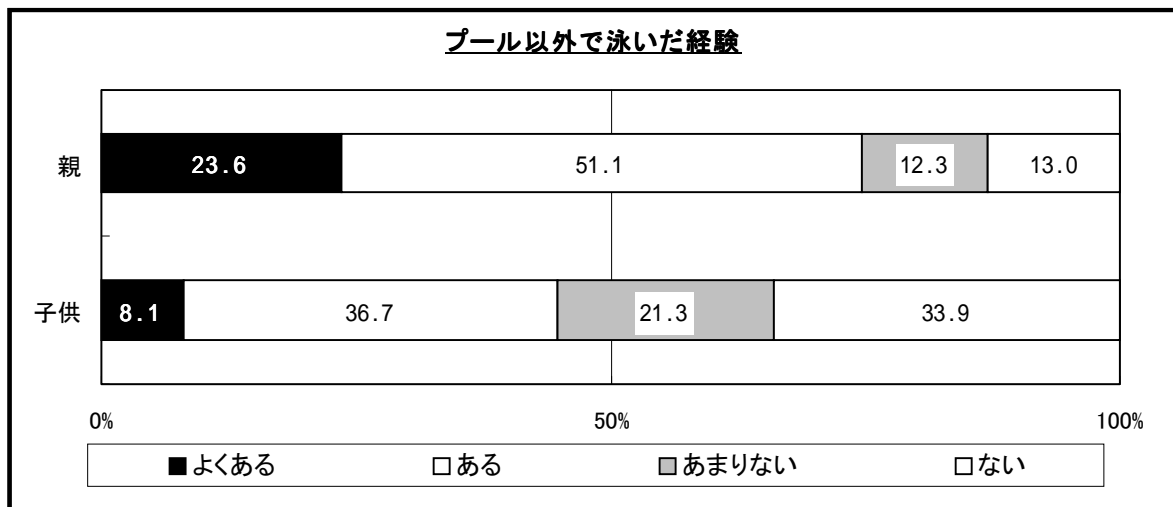
日常生活と水

Q.あなたは海・川・湖などプール以外で泳いだことはありますか？

Q.あなたはの子供はどうですか？（子供・孫がいる人だけ回答 / N=433）

3割以上の子供が『プール以外で泳いだことのない』

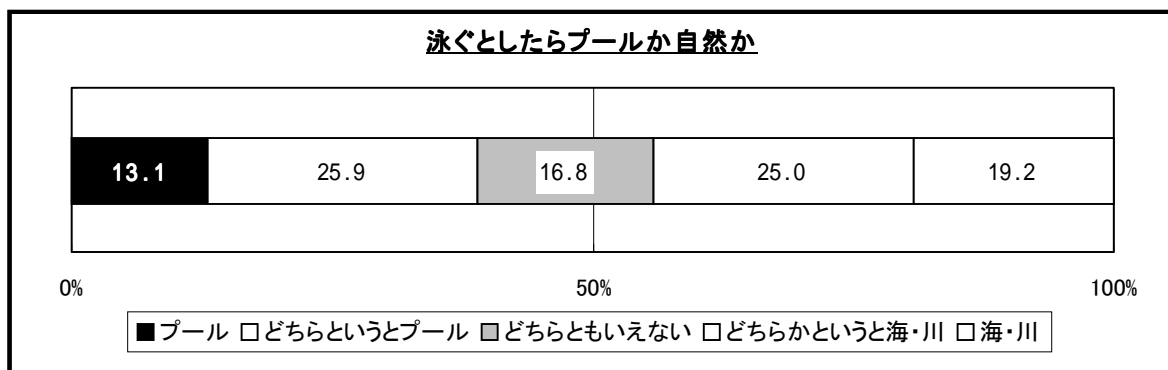
本人（大人）と自分の子供について、自然の海・川・湖で泳いだ経験を聞きました。本人（大人）の場合は、74.7%が『よくある』または『ある』としていますが、自分の子供については『ない』がおおよそ3人に1人（33.9%）、『あまりない』（21.3%）と合わせると過半数（55.2%）の子供が、自然の水ではほとんど泳いだことがないという結果になりました。



Q.泳ぐとしたら「清潔なプール」か「自然の川・海」のどちらがよいですか？

“自然派”が“プール派”を若干上回る

清潔なプールと自然あふれる海や川。泳ぐとしたらどちらがよいでしょうか。結果は、“自然派”（『自然の海や川がよい』と『どちらかというと海や川がよい』の合計）が44.2%、“プール派”（『清潔なプール』と『どちらかというとプールがよい』の合計）が33.9%と、やや“自然派”が優勢でした。



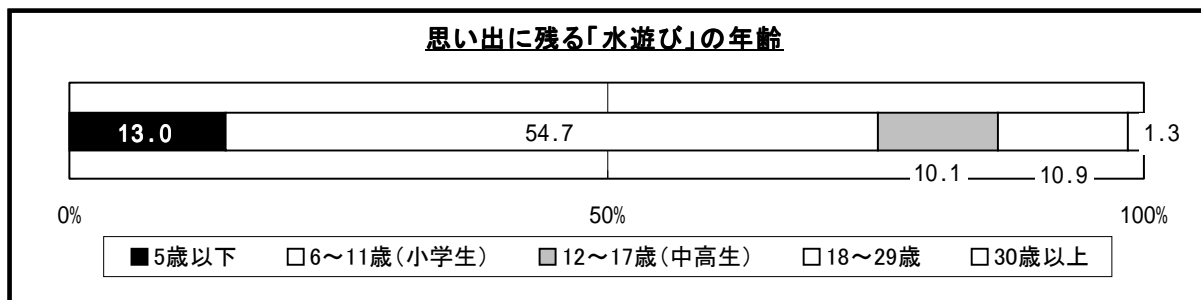
Q.思い出に残る「水遊び」は、何歳頃、どこで、何をしたことですか？

『小学校の頃』(54.7%)、『海で』(39.5%)、『水泳をした』(28.5%) 思い出

思い出に残っている印象深い「水遊び」または「水辺での遊び」について、何歳の頃、どこで、どのような種類の遊びをしたかを聞きました。「年齢」については過半数の54.7%が『6～11歳(小学時代)』としており、思い出の「水遊び」の場所は、『海』(39.5%)や『川』(31.8%)が多数派でした。また「水遊び」の種類については、『水泳』(28.5%)が圧倒的トップでした。

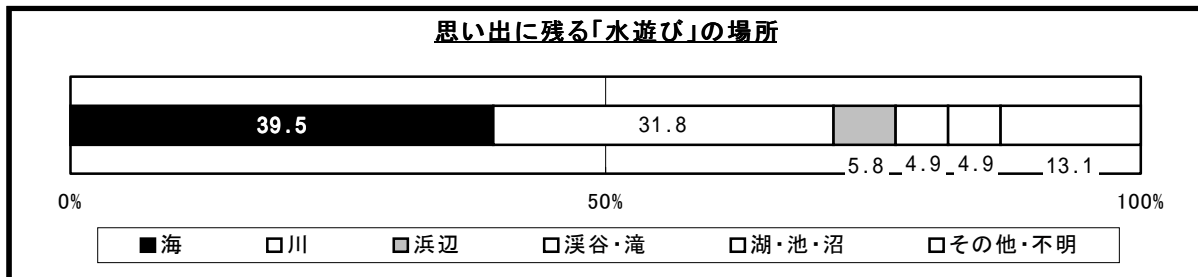
何歳頃の思い出か？(年齢を記入)

半数以上の54.7%が『6～11歳』の頃と答えました。『5歳以下』、『12～17歳』、『18～29歳』を挙げた回答者はいずれも1割前後で、小学生時代に経験した「水遊び」がもっとも印象深いと思っている人が多数を占めました。



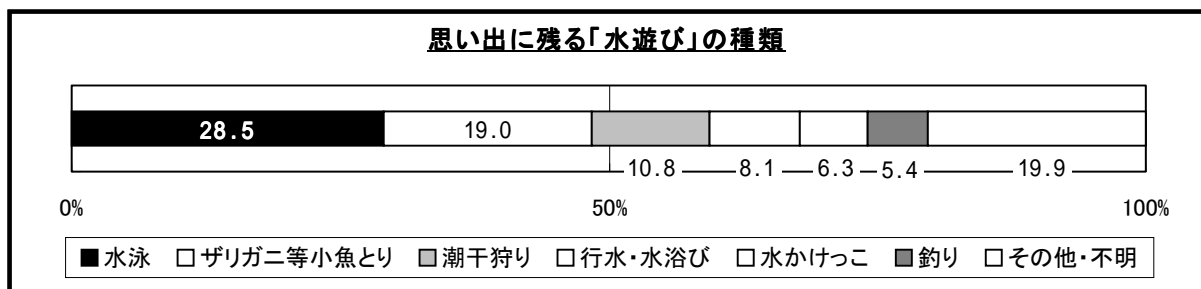
どこで体験した思い出か？(14択+その他)

1位の『海』(39.5%)と2位の『川』(31.8%)に回答が集中。3位以下は『浜辺』(5.8%)、『湖・池・沼』(4.9%)などと続きましたが、いずれも1割に達しませんでした。



どんな「水遊び」をした思い出か？(17択+その他)

トップの『水泳』(28.5%)以下、『ザリガニ、めだか等の小魚とり』(19.0%)、『潮干狩り』(10.8%)、『行水、水浴び』(8.1%)などと続きました。上位はいずれも、少なくとも大都市では、昔ながらの形ではできなくなっているもの、といえるのではないのでしょうか。



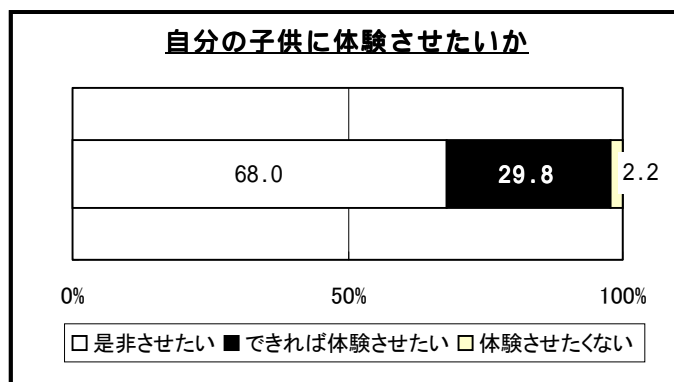
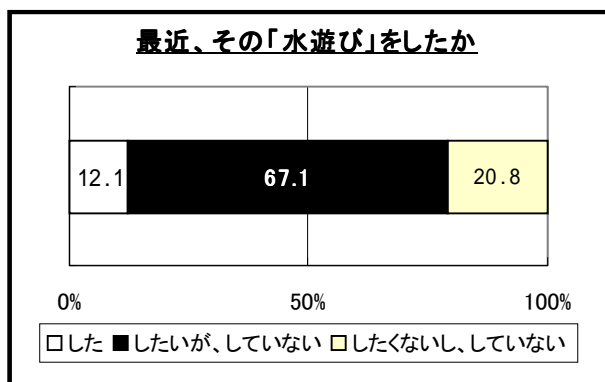
Q.思い出の「水遊び」を最近しましたか？

Q.自分の子供（孫）にその「水遊び」を体験させたいと思いますか？

67.1%が思い出の「水遊び」を『したいが、していない』
 自分の子供にも『是非（体験）させたい』が68.0%

前問の「思い出に残る水遊び」について、「最近、その遊びをしたか？」、「その遊びを自分の子供や孫（いない方の場合はいと仮定して）に体験させたいと思うか？」の2点について答えてもらいました。

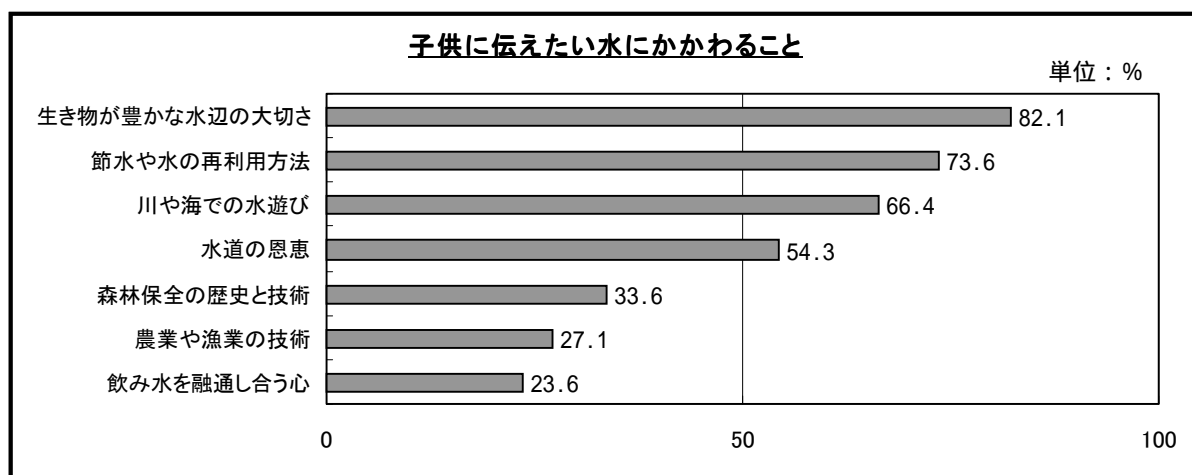
「最近したか？」については、『した』は12.1%にとどまり、『したいが、していない』（67.1%）が多数を占めました。「子供に体験させたいか？」については、68.0%が『是非させたい』と回答、『させたくない』はわずか2.2%でした。



Q.水にかかわることで、子供に伝えたいと思うことは？（10 択 + その他 / 複数回答）

もっとも子供に伝えたいことは『生き物が豊かな水辺の大切さ』
 50代以上で高い『水道の恩恵』『森林保全の歴史と技術』

「水遊び」に限らず、水にかかわるあらゆることで、子供に伝えたいことを聞きました。トップは『生き物が豊かな水辺の大切さ』で82.1%、以下『節水や水の再利用方法』（73.6%）、『川や海での水遊び』（66.4%）、『水道の恩恵』（54.3%）までが5割を超えました。年代別に見ると、『川や海での水遊び』は20代の76.0%に対して50代以上は57.4%、『水道の恩恵』は20代の47.3%に対して50代以上は66.0%、いずれも20ポイント近い差が出ました。また『森林保全の歴史と技術』は、20代（26.7%）・30代（25.2%）と50代以上（49.6%）で25ポイント近くの開きがありました。



子供に伝えたい水にかかわること〔年代別比較で差異が大きいものを抜粋〕

	20代	30代	40代	50代以上
川や海での水遊び	76.0%	71.0%	61.0%	57.4%
水道の恩恵	47.3%	53.4%	50.7%	66.0%
森林保全の歴史と技術	26.7%	25.2%	32.4%	49.6%

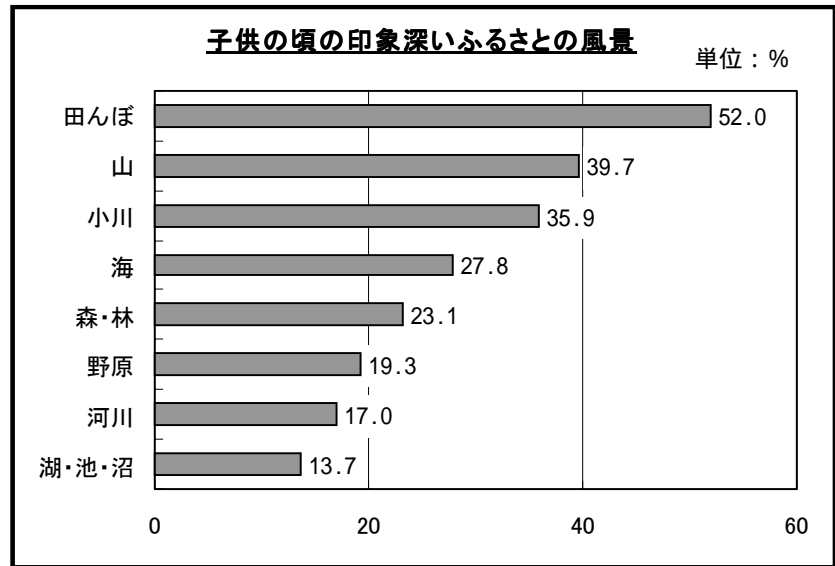
Q.子供の頃の印象深いふるさとの風景は？（10択＋その他／複数回答）

トップは『田んぼ』で5割を超える

「うさぎ追いし…」でおなじみの唱歌「ふるさと」を例に出すまでもなく、誰にでも子供の頃のなつかしい思い出と結びついた、印象深い風景があるのではないのでしょうか。

1位は唯一5割を超えた『田んぼ』（52.0%）でした。以下『山』、『小川』、『海』などと続きました。

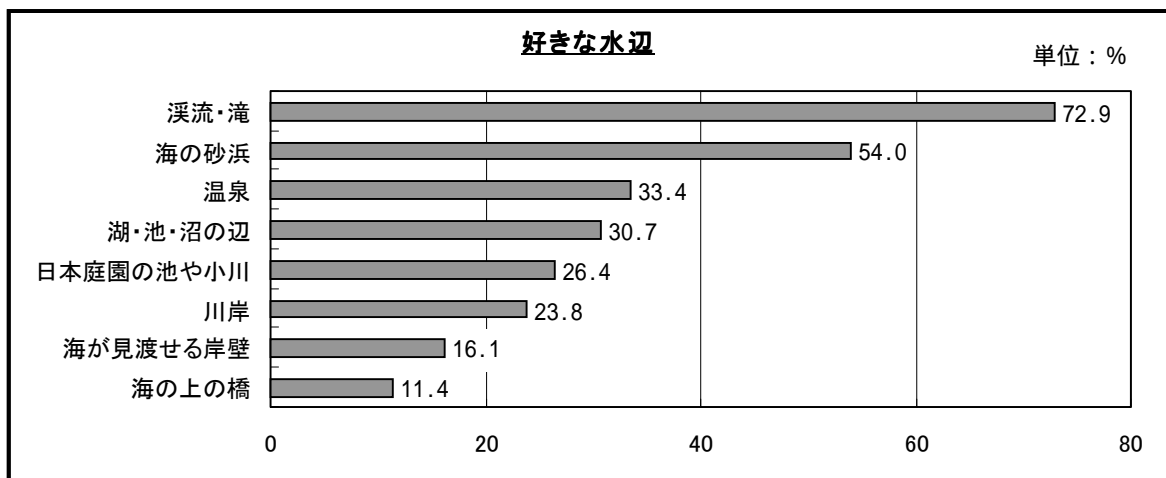
『田んぼ』はあらゆる年代でトップを占めており、まさに日本人の心に残る風景といえそうです。



Q.あなたが好きな水辺は？（15択＋その他／3つまで選択）

都会人の人気トップは『溪流・滝』（72.9%）

トップは他を引き離して『溪流・滝』でした。『海の砂浜』（54.0%）も半数を超えました。都会人は両者に“癒しのイメージ”を強く感じているのかもしれません。

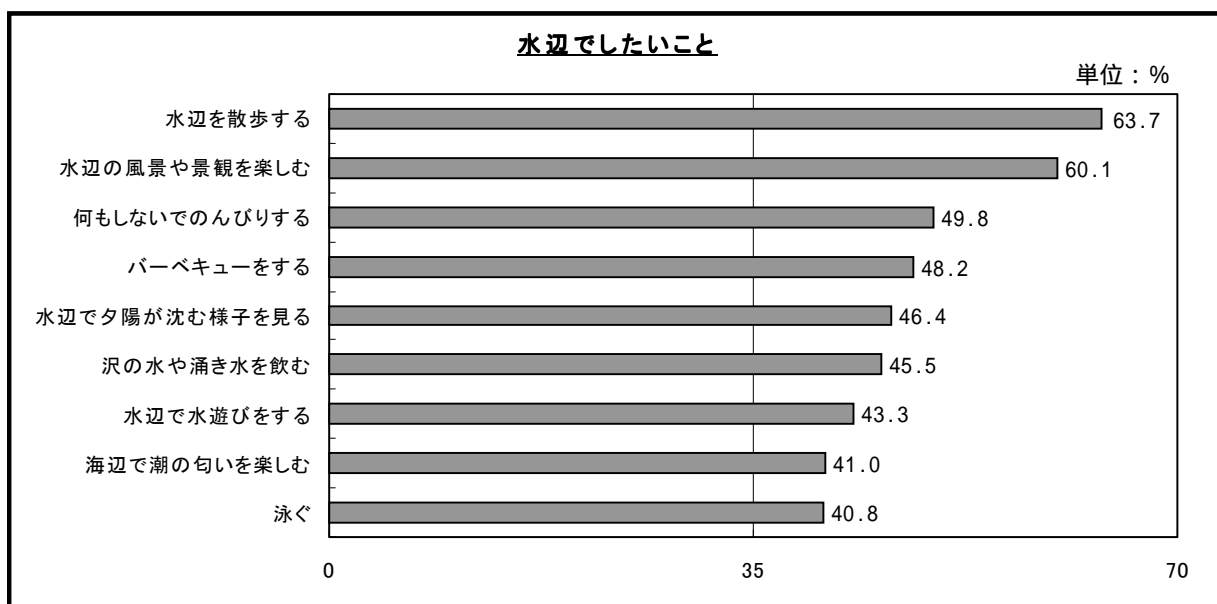


Q.水辺でやってみたいことは？（22 択 + その他 / 複数回答）

都会人は疲れている!?

トップ3は“癒し系”の『散歩』『風景や景観』『何もしないでのんびり』

トップ3は『水辺を散歩する』（63.7%）、『水辺の風景や景観を楽しむ』（60.1%）、『何もしないでのんびりする』（49.8%）で、いずれも「静かに自然を楽しむ」という風情の回答でした。能動的な活動としては4位に『バーベキューをする』（48.2%）、9位に『泳ぐ』（40.8%）が入っているくらいで、上位には癒しを求めるような回答が並びました。



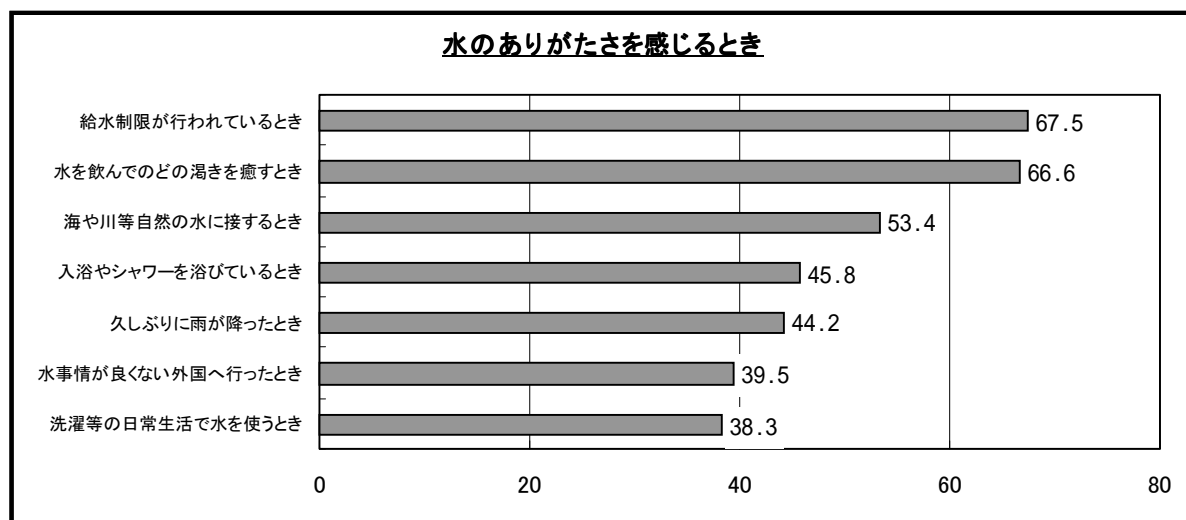
Q.水のありがたさを感じる時？（11 択 + その他 / 複数回答）

ありがたさを感じるトップ3は

『給水制限が行われているとき』『のどの渴きを癒すとき』『自然の水に接するとき』

大都市生活者が「水のありがたさ」を感じるのは、どんなときでしょうか。

1位『給水制限が行われているとき』（67.5%）、『水を飲んでのどの渴きを癒すとき』（66.6%）、『海や川などの自然の水に接するとき』（53.4%）までが5割を超えました。

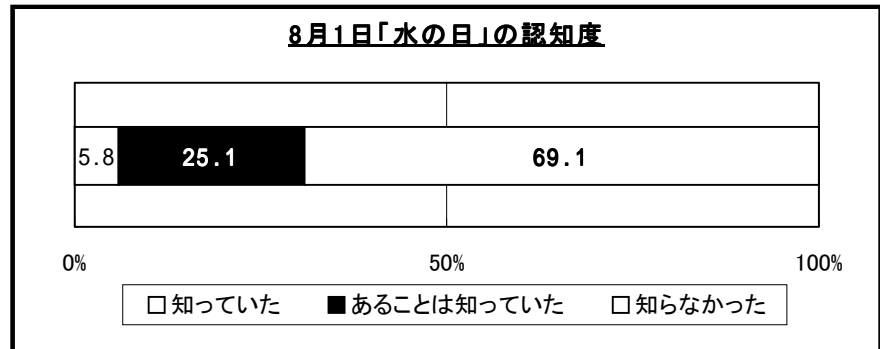


水にかかわる環境意識

Q.8月1日が「水の日」ということを知っていましたか？

7割近くが水の日があることさえ『知らなかった』

1957年に国土庁（現・国土交通省）が制定した「水の日」。かけがえのない資源である水を大切にしようという趣旨ですが、『知っている』はわずか5.8%にとどまり、7割近くが水の日があることさえ『知らなかった』という結果でした。



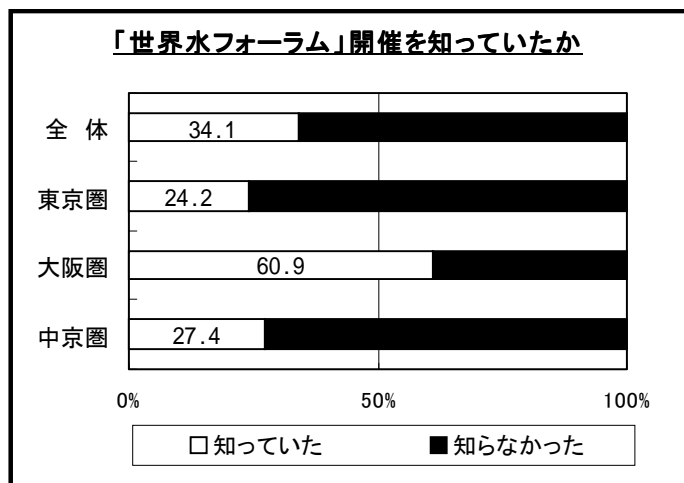
Q.今年の3月に「世界水フォーラム」が開催されたことを知っていましたか？

『知っていた』は34.1%にとどまる

昨年3月に滋賀・京都・大阪で開催された「第3回世界水フォーラム」。日本で初めての開催ということもあり、新聞などでも大きく取り上げられました。

ところがその認知率は34.1%にとどまり、必ずしも関心が高いとはいえない結果でした。

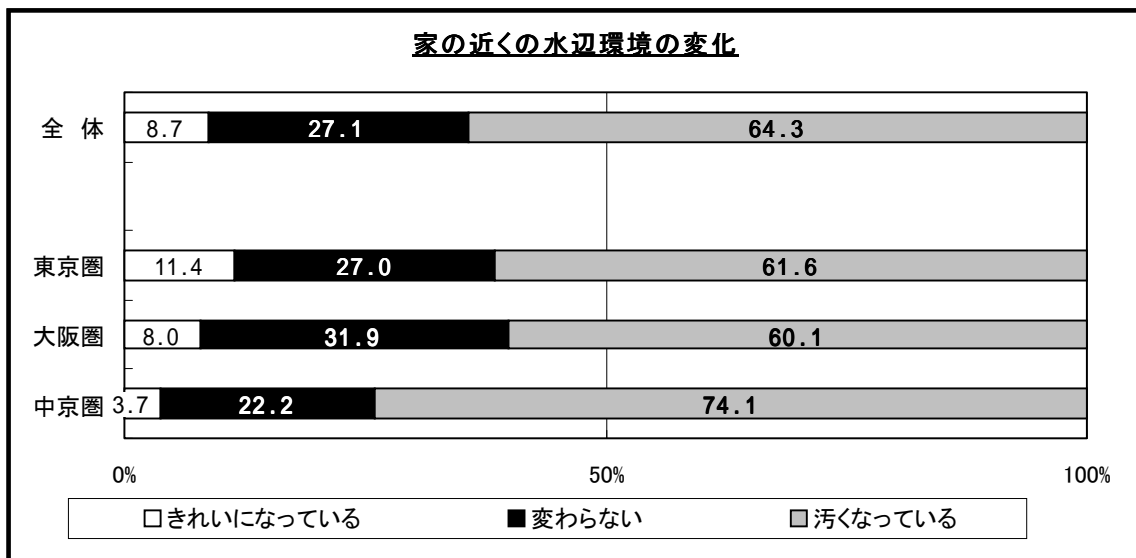
居住地別で見ると、東京圏・中京圏の認知率は3割以下なのに対して、開催地であった大阪圏では6割を超える高い認知率でした。



Q.あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

全体では64.3%が『汚くなっている』と回答

近くの水辺環境の変化について聞いたところ、6割以上が『汚くなっている』と回答。『きれいになっている』は8.7%にとどまりました。居住地別で見ると、東京圏の『きれいになっている』が1割を超えましたが、かつてあまりにも汚かったことの裏返しでしょうか。

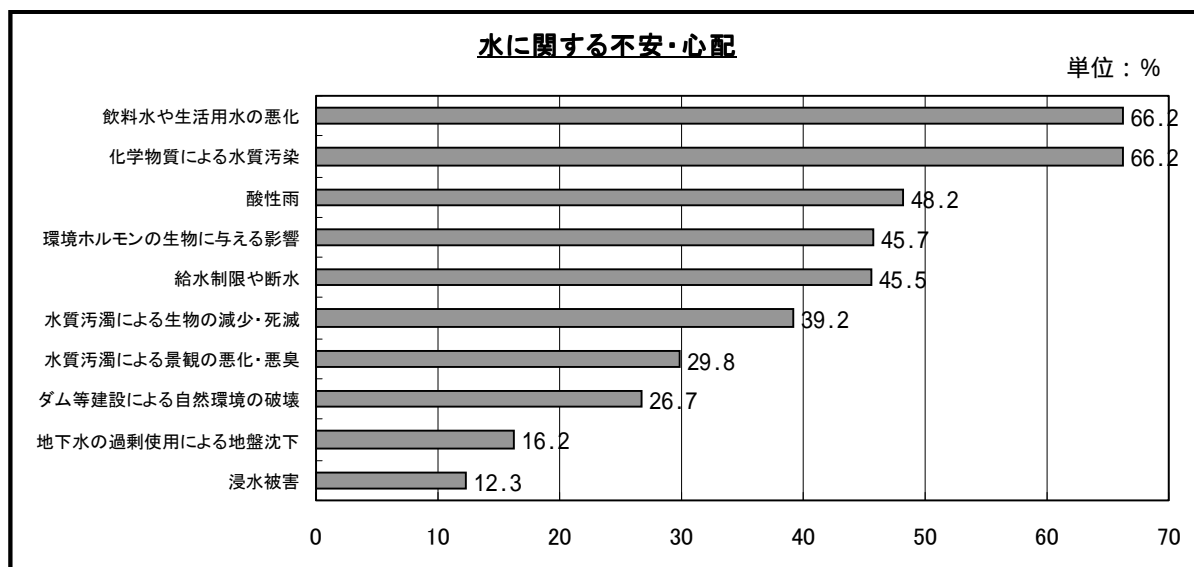


Q.水に関して日頃不安や心配を感じていることは？（13択＋その他／複数回答）

もっとも不安なのは『飲料水や生活水の悪化』と『化学物質による水質汚染』

水に関して日頃から不安を感じていることを聞きました。

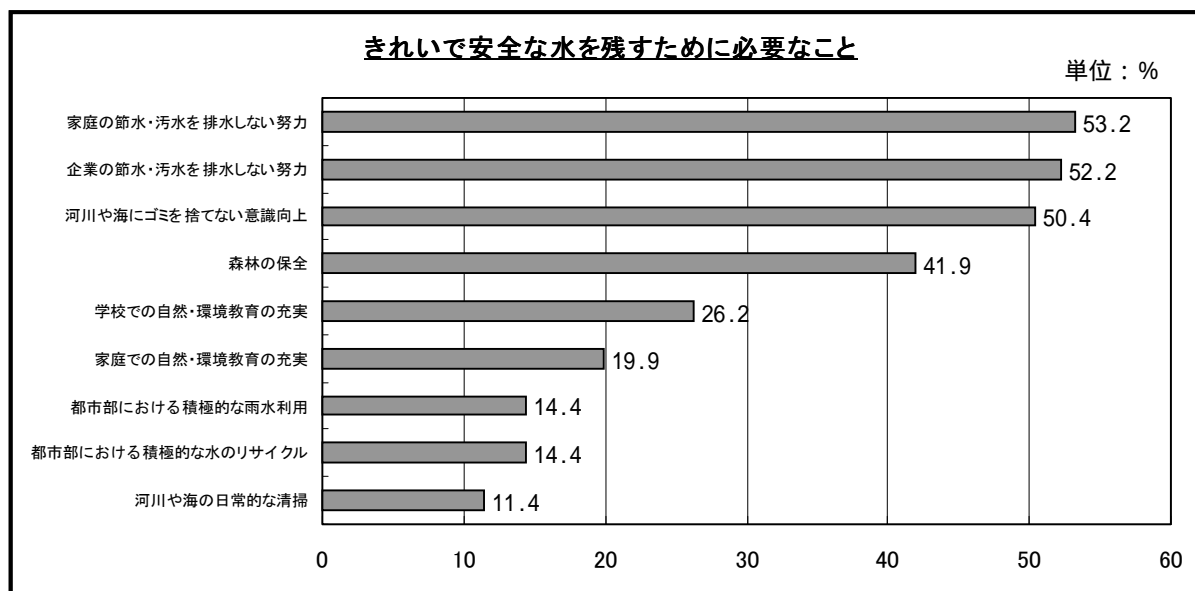
トップは66.2%で『飲料水や生活水の悪化』と『化学物質による水質汚染』でした。以下、『酸性雨』（48.2%）、『環境ホルモンの生物に与える影響』（45.7%）、『給水制限や断水』（45.5%）などと続きました。



Q.きれいで安全な水を残すために必要なことは？（11 択 + その他 / 複数回答）

『家庭の節水・汚水を排水しない努力』がトップ

『家庭の節水・汚水を排水しない努力』（53.2%）、『企業の節水・汚水を排水しない努力』（52.2%）が小差で1位・2位に並びました。汚れた水を捨てないことが何よりも大切という結果になりました。



Q.あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？

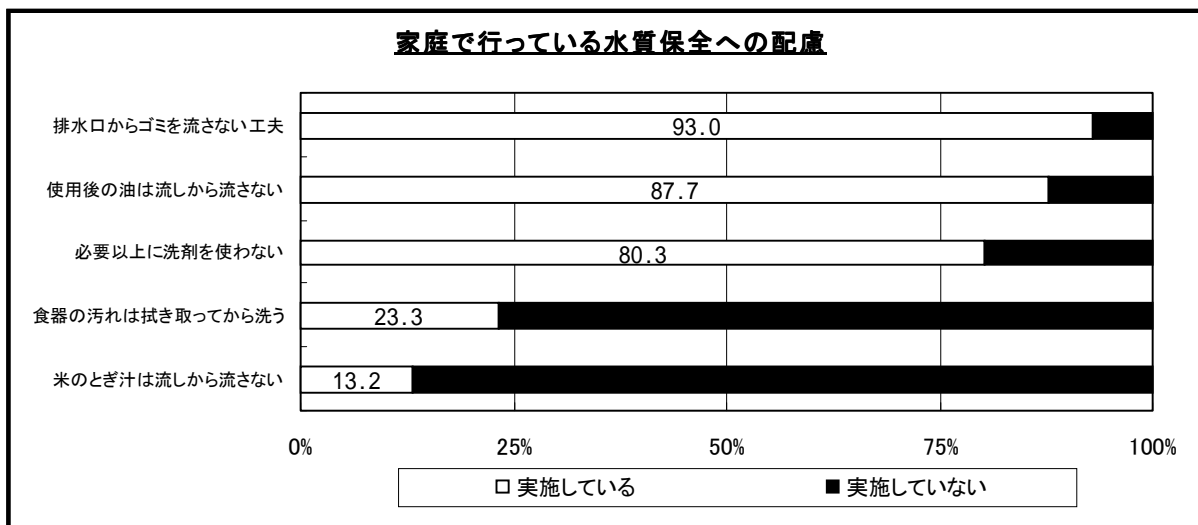
「排水口からゴミを流さない工夫」は9割以上の家庭で実施

家庭における水質保全への第一歩は、生活廃水を流さないように努力することです。

「排水口からゴミを流さない工夫」は9割以上の家庭で、「使用後の油を流しから流さない」

「必要以上に洗剤を使わない」は8割以上の家庭で実施していました。

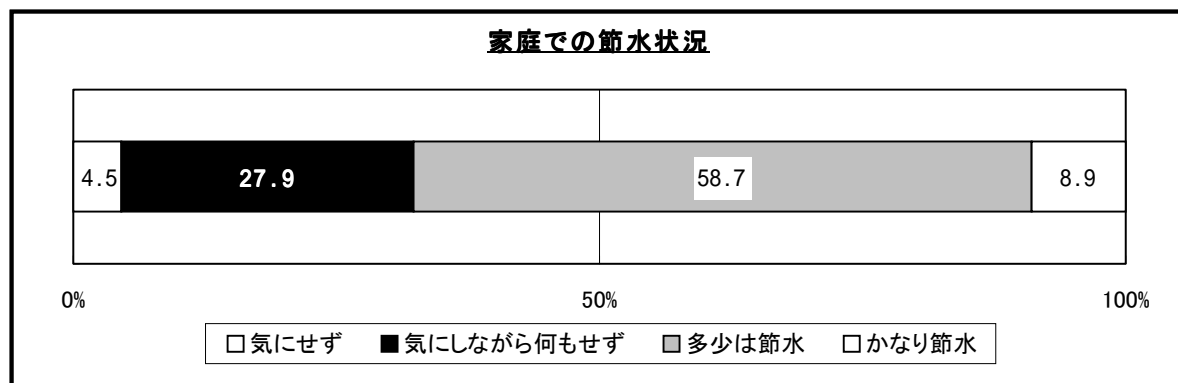
一方、洗剤や水の量を減らすことになる「食器の汚れは拭き取ってから洗う」は23.3%の実施率、川や湖の富栄養化対策になるといわれる「米のとぎ汁を流しから流さない」は13.2%と低い実施率でした。



Q.あなたの家庭ではどの程度節水していますか？

67.6%の家庭が、節水や水の使い回しを『かなり』あるいは『多少』している

家庭での節水や水の使いまわしについては、『かなりしている』が8.9%、『多少はしている』が58.7%で、7割弱の家庭が何らかの節水や水の再利用を行っているという結果になりました。

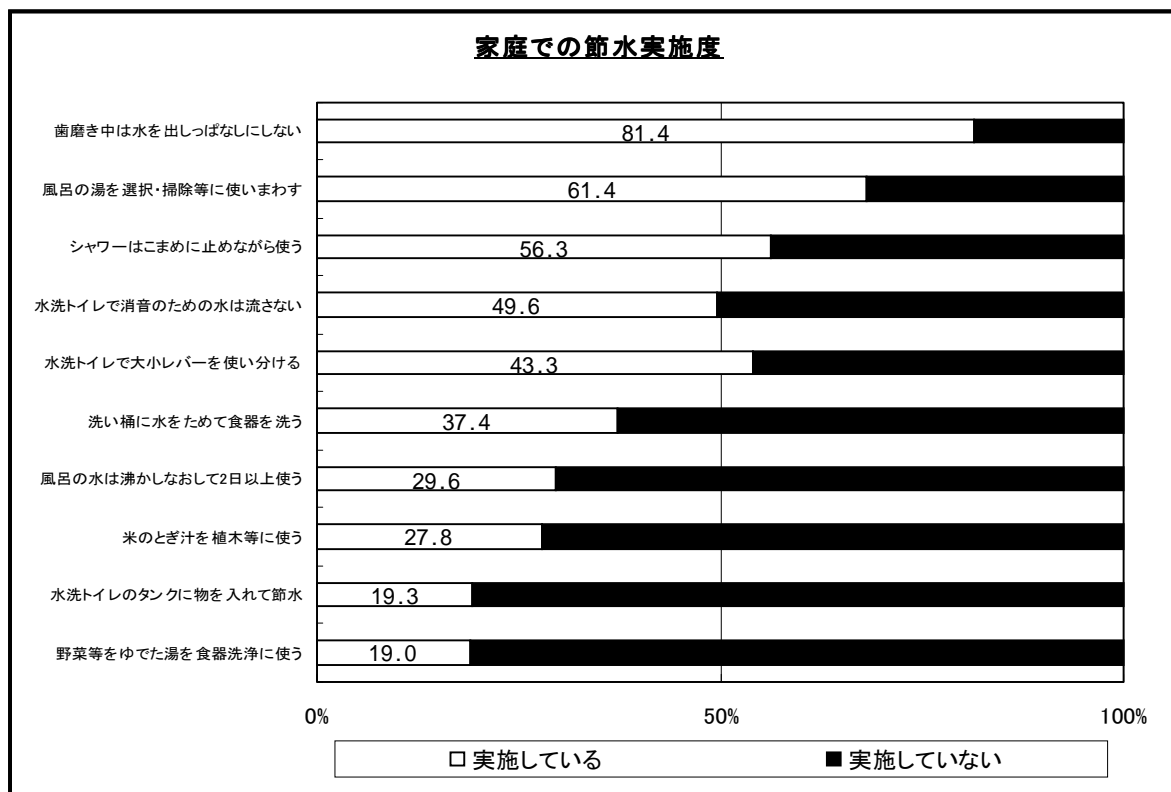


Q.あなたの家庭の節水方法は？

『歯磨き中の水は出しっぱなしにしない』は8割以上の家庭で実施

節水に効果がある10項目について、家庭での実施状況を聞きました。

もっとも実施率が高かったのが『歯磨き中の水は出しっぱなしにしない』で81.4%。『風呂のお湯を洗濯や掃除に使いまわす』(61.4%)、『シャワーはこまめに止めながら使う』(56.3%)も5割を超える実施率でした。比較的实施率が低かったのは『野菜をゆでた湯を食器洗浄等に使いまわす』(19.0%)、『水洗トイレのタンクに物を入れて節水する』(19.3%)などでした。

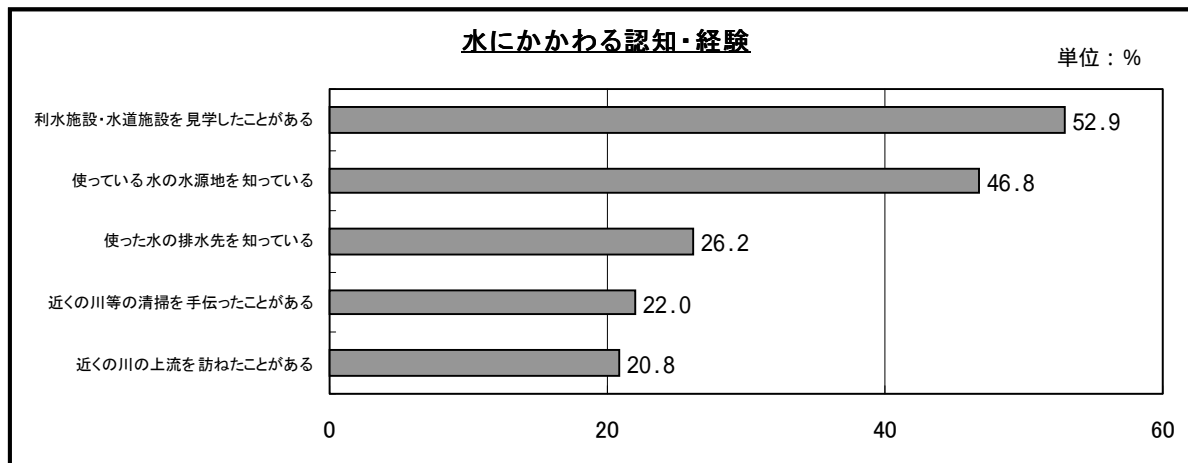


Q.水にかかわることで知っていること、経験のあることは？

半数に達してない『使っている水の水源を知っている』

『使った水の排水先を知っている』のは4人に1人

私たちの生活に1日たりとも欠かせない水道の水。ところが『使っている水の水源地を知っている』は半数に達しない46.8%にとどまりました。『使った水の排水先を知っている』はさらに少なく、おおよそ4人に1人の26.2%でした。

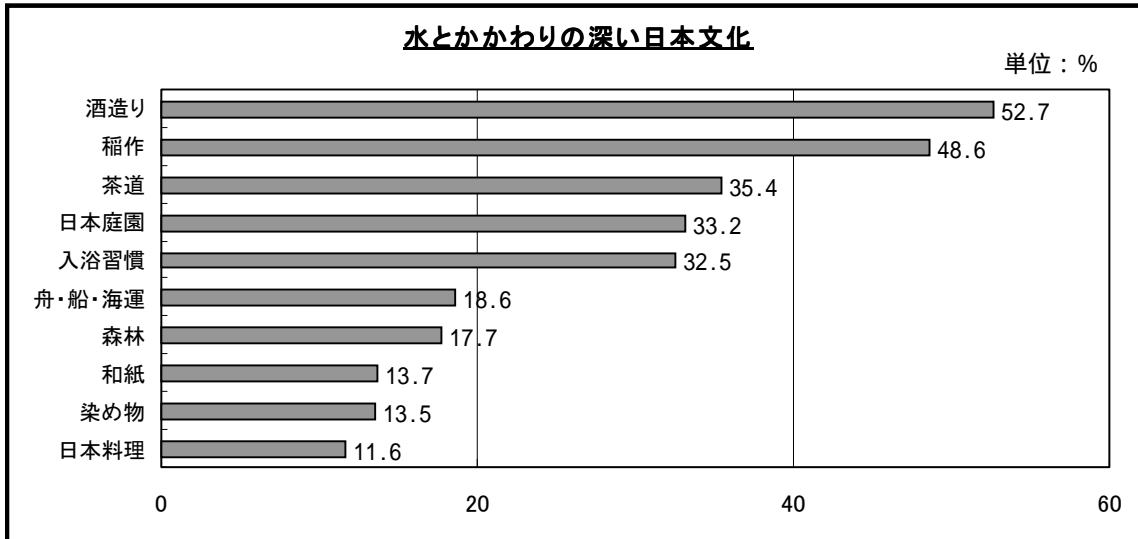


生活文化と水

Q.水とかかわりの深い日本文化といえば？（19 択 + その他 / 複数回答）

トップ3は『酒造り』『稲作』『茶道』

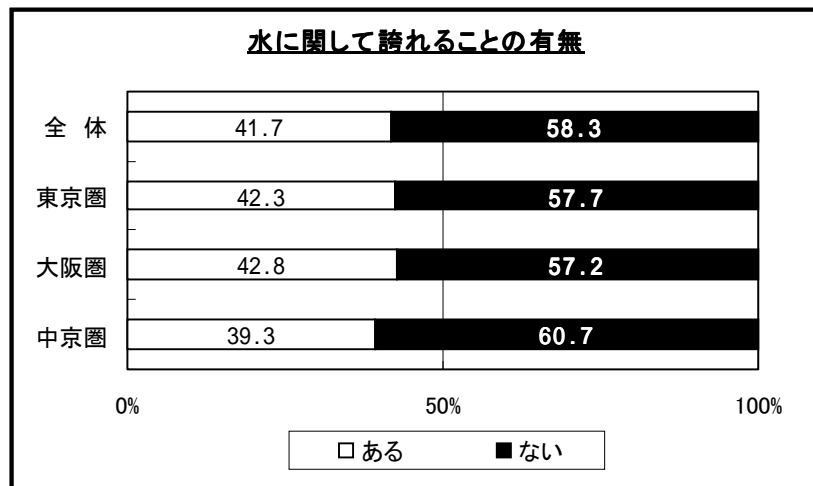
1位『酒造り』（52.3%）以下、2位『稲作』（48.6%）、3位『茶道』（35.4%）などと続きました。



Q.あなたの居住地域には、水に関して誇れることはありますか？

全体では『水に関して誇れることがある』は4割強にとどまる

居住している地域に水に関して誇れることがあるかを聞いたところ、全体では『ある』は約4割（41.7%）で、半数に達しませんでした。居住地による大きな差はありませんでした。



Q.水に関して誇れることは何ですか？（15 択 + その他 / 複数回答）

『川』が5割弱で圧倒的トップ

前問で『水に関して誇れることがある』と回答した方だけを対象に、具体的に何が誇れるのかを聞きました。

全体では『川』が48.1%で他を引き離してトップ。以下『公園』（25.1%）、『海』（20.3%）と続きました。居住地別に見てもこのトップ3は変わりませんが、東京圏で『川』を挙げた回答者は41.2%にとどまっており、中京圏（58.5%）、大阪圏（52.5%）に比べて、10ポイント以上低いという結果でした。

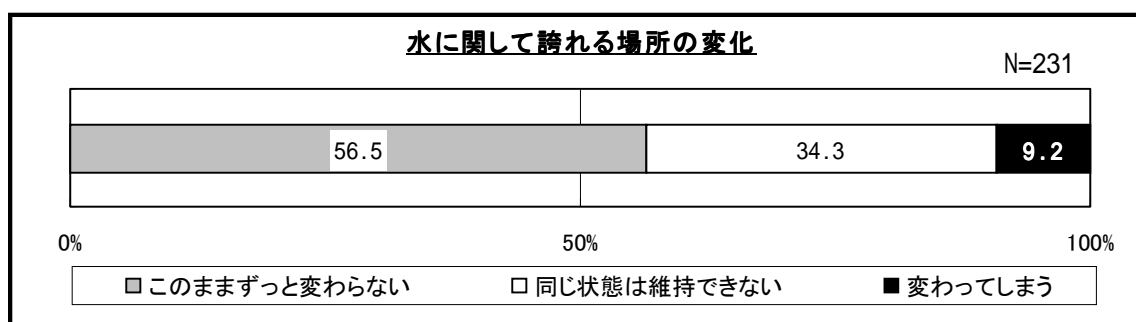
水に関して誇れるもの・場所・事柄トップ5

全体 (%) N=231		東京圏 (%) N=119		大阪圏 (%) N=59		中京圏 (%) N=53					
1	川	48.1	1	川	41.2	1	川	52.5	1	川	58.5
2	公園	25.1	2	公園	29.4	2	公園	16.9	2	公園	24.5
3	海	20.3	3	海	25.2	3	海	11.9	3	海	18.9
4	湖・池・沼	10.8	4	湖・池・沼	13.4				3	水道	
5	湧水 水族館	10.0	5	湧水	11.8	5	水族館 森林 渓谷	10.2	5	森林	15.1

Q.水に関して誇れる場所は、これからもずっとこのまま変わらないと思いますか？

『ずっと変わらない』が過半数

前問と同様『水に関して誇れることがある』と回答した方だけに答えてもらいました。過半数の56.5%が『このままずっと変わらないと思う』と答え、『時代には逆らえず同じ状態は維持できないと思う』(34.3%)、『変わってしまうと思う』(9.2%)を上回りました。



Q.もっとも自然が残っていると考える日本の川は？（自由回答）

7年連続で『四万十川』がトップ

1位は当設問を設定して以来7年連続で『四万十川』でした。「最後の清流・四万十川」というイメージは広く定着しているようです。2位以下もこれまでとほぼ同様の結果でしたが、いずれも1割には達しませんでした。

もっとも自然が残っていると考える日本の川（5年の推移）

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
1	四万十川 48.6	四万十川 51.5	四万十川 46.4	四万十川 48.9	四万十川 46.9
2	長良川 6.1	長良川 4.6	長良川 6.4	長良川 6.4	長良川 5.2
3	信濃川 4.3	信濃川 4.3	最上川 4.7	信濃川 5.6	石狩川 4.5
4	石狩川 4.1	木曽川 3.5	木曽川 4.3	利根川 3.9	信濃川 4.2
5	最上川 3.5	石狩川 最上川 利根川 2.6	信濃川 3.6	石狩川 3.1	最上川 3.8

Q.水辺の自然がもっとも損なわれていると思う都道府県は？（自由回答）

8割以上が『東京』または『大阪』と回答

多少はきれいになっているといわれる大都市の水辺ですが、その居住者が考える、もっとも水辺の自然が損なわれている都道府県はどこでしょうか。

全体では『東京』(54.3%)が半数を超えてトップ。『大阪』が24.7%で続き、8割以上が『東京』または『大阪』を、もっとも水辺環境が損なわれていると考えているという結果になりました。

水辺の環境がもっとも損なわれていると思う都道府県トップ3

	全 体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	東 京	54.3%	東 京	60.1%	大 阪	47.1%	東 京	57.0%
2	大 阪	24.7%	大 阪	13.9%	東 京	39.9%	大 阪	24.4%
3	神奈川	4.2%	神奈川	7.5%	滋 賀	4.3%	滋 賀 愛 知	3.0%

Q.「水の都」のイメージにもっとも近い都市は？（自由回答）

東京圏は『京都』、大阪圏は『大阪』、中京圏は『大垣』をイメージ

水の都という言葉のイメージにもっとも近い日本の都市を挙げてもらいました。

全体のトップは、古くから水都と称されてきた『大阪』でした。居住地別のトップは、東京圏が『京都』、大阪圏が『大阪』、中京圏が『大垣』でした。

「水の都」のイメージの都市トップ5

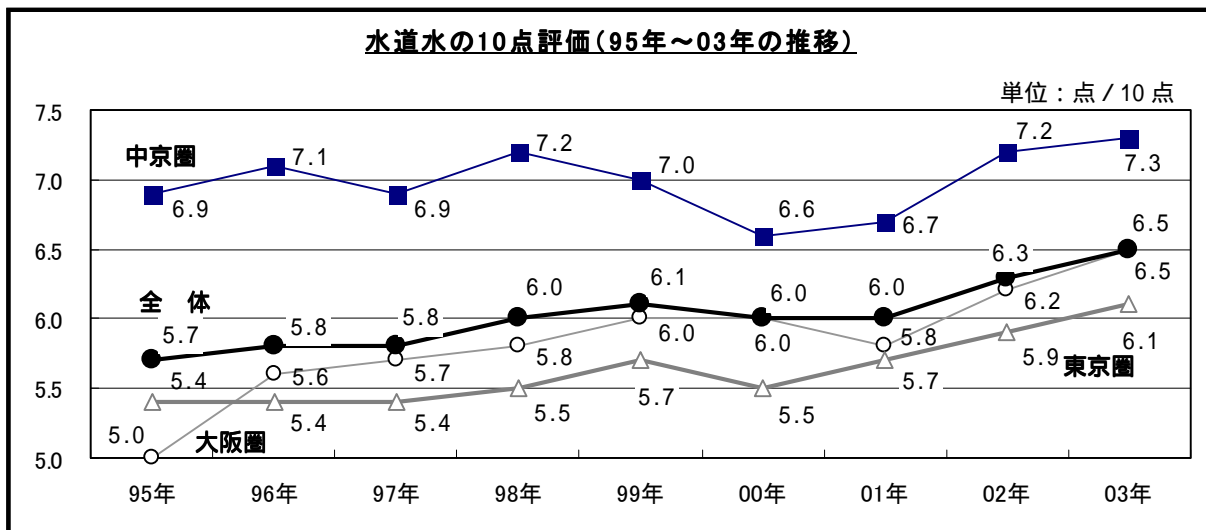
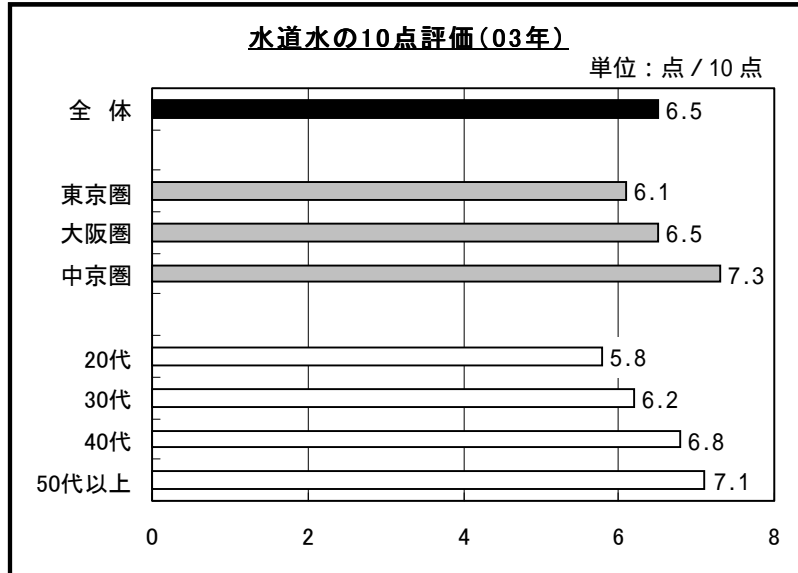
	全 体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	大 阪	10.6%	京 都	11.4%	大 阪	28.3%	大 垣	14.1%
2	京 都	10.5%	大 阪	5.3%	京 都	9.4%	京 都	9.6%
3	仙 台	5.4%	柳 川		大 津	7.2%	郡上八幡	8.9%
4	柳 川	3.8%	仙 台	5.0%	長 野	5.8%	仙 台	6.7%
5	長 野	3.6%	潮 来	4.6%	滋 賀	5.1%	岐 阜	5.9%

水道水と飲用水

Q.水道水を10点満点で採点すると？

全体では6.5点、5年前（98年）に比べて0.5点アップ
 東京圏（6.1点）と中京圏（7.3点）で1点以上の差、年代が低いほど厳しい評価

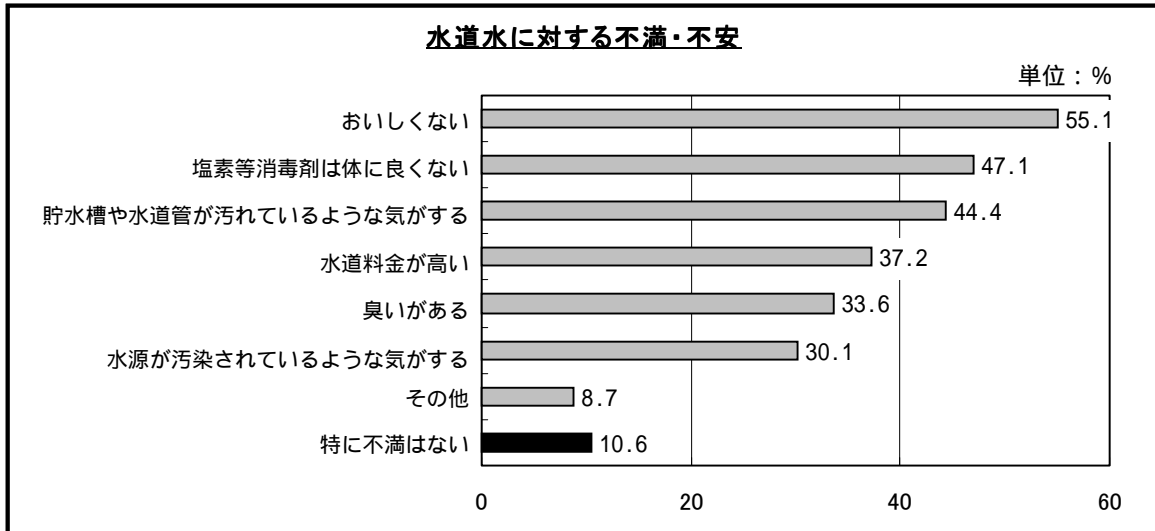
全体では昨年より0.2点アップの6.5点でした。5年前の98年と比べると0.5点アップしており、水道水の評価は徐々に良くなってきているといえます。居住地別に見ると、中京圏は7.3点と相対的に評価が高く、東京圏（6.1点）とは1.2点の差が出ました。一方、年代別では、年代が高くなるほど水道水に対する評価が高くなり、20代（5.8点）と50代以上（7.1点）では1.3点の開きがありました。



Q.水道水について不満を感じていることは？（複数回答 / 9択 + その他）

『おいしくない』が過半数の55.1%でトップ、『特に不満はない』は1割強
 『おいしくない』は東京圏64.1%、中京圏38.5%と大きな開き

水道水に対する不満のトップは『おいしくない』で半数以上の55.1%に達しました。『特に不満はない』は1割強（10.6%）にとどまりました。居住地別では、相対的に中京圏の不満が少なく、東京圏が多いという傾向が見られ、『おいしくない』は東京圏64.1%に対して中京圏38.5%と25.6ポイントもの差がつかました。また、『特に不満はない』は中京圏が2割近く（18.5%）に達しているのに対して、東京圏（7.8%）、大阪圏（8.7%）は1割に届きませんでした。



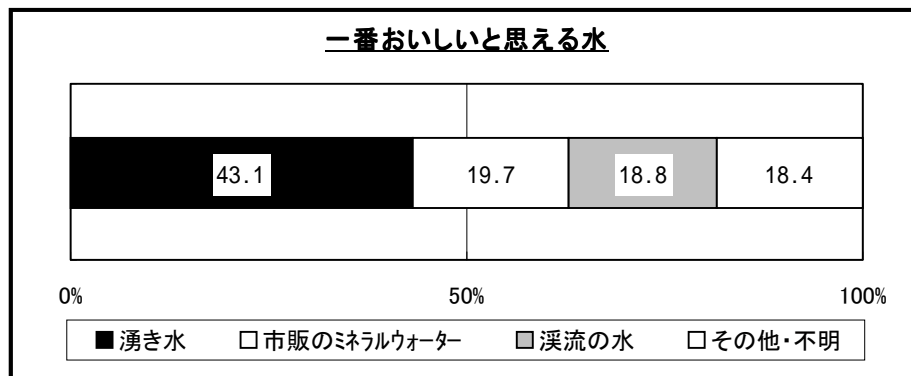
「水道水に対する不満」居住地別比較

	全体	東京圏	大阪圏	中京圏
おいしくない	55.1%	64.1%	52.9%	38.5%
特に不満はない	10.6%	7.8%	8.7%	18.5%

Q.あなたにとって一番おいしいと感じる水は？（7択＋その他）

トップ3は『湧き水』、『ミネラルウォーター』、『溪流の水』
水道水は2.2%にとどまる

都市生活者がおいしいとイメージしている水はどんな水でしょうか。
結果は、トップの『湧き水』（43.1%）以下、『市販のミネラルウォーター』（19.7%）、『溪流の水』（18.8%）、『浄水器を通った水』（6.1%）、『井戸水』（6.1%）の順位でした。ちなみに『水道水』は2.2%でした。



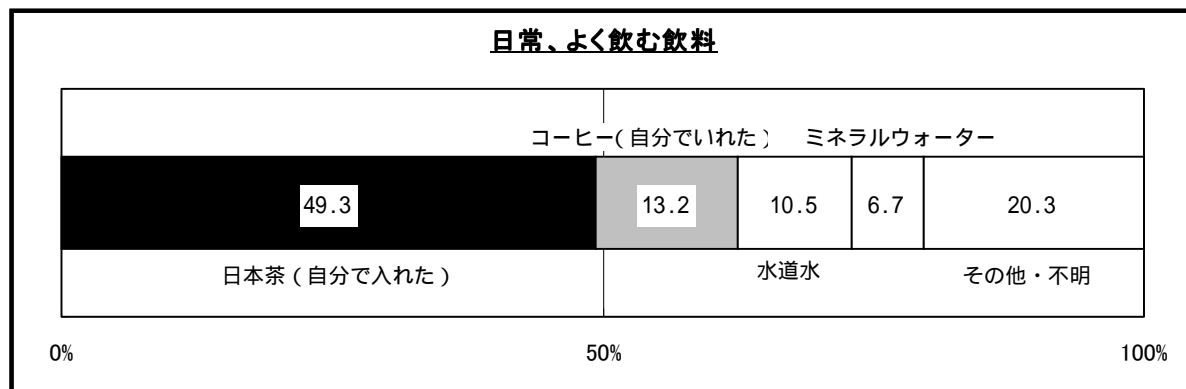
Q.日常、あなたがよく飲む飲料は？（13択）

トップは『自分で入れた日本茶』、『水道水』は1割強で第3位
『水道水』を飲むのは、50代以上（19.1%）、男性（14.0%）

都市生活者は、実際の日常生活において、どのような飲料で水分を補給しているのでしょうか。
トップは『自分で入れた日本茶』で約5割（49.3%）に達しました。ペットボトルや缶入りのお茶がブームといわれていますが、まだまだ「自分でお茶を入れる」という習慣は健在のようです。お茶が健康飲料として見直されていることも一因かもしれません。

注目すべきなのは、『水道水』（10.5%）が、『ミネラルウォーター』（6.7%）などを抑えて3位に入っていること。何かと不満が多い水道水ですが、日常の水分補給にはなくてはならない存在といえそうです。

『水道水』について属性別に見ると、まず年代では20代の4.1%、30代の4.6%に対して、40代では14.0%、50代以上では19.1%と、20代・30代と40代・50代以上で大きな差が出ました。男女別では男性（14.0%）が女性（6.7%）の約2倍。居住地別では、大阪圏が5.8%と東京圏・中京圏に比べて低いという結果になりました。



日常生活で『水道水』をよく飲むのは？

全体	20代	30代	40代	50以上	男性	女性	東京圏	大阪圏	中京圏
10.5%	4.1%	4.6%	14.0%	19.1%	14.0%	6.7%	11.7%	5.8%	12.6%

Q.災害等で水道が止まってしまったら？

『行政等の救援の水』を期待

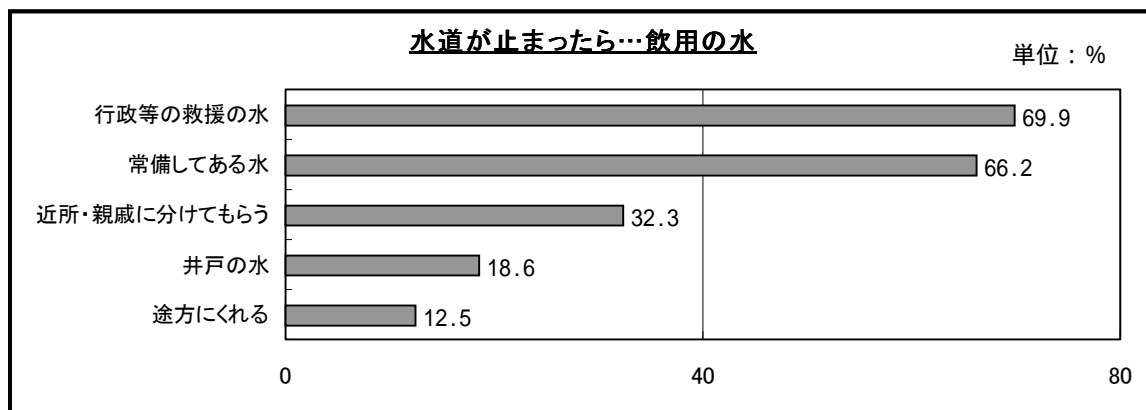
「トイレ」「風呂」は『雨水』や『川の水』の利用も想定

地震などの災害により家庭の水道が止まってしまった場合、「飲み水」「料理」「洗面」「風呂」「水洗トイレ」それぞれに使う水をどうするか聞ききました。

その結果、「水洗トイレ」以外は『行政等の救援の水』を使うという回答がトップでした。直接口にする「飲用」や「料理」は『常備してある水』の比率も高く、「風呂」や「水洗トイレ」では『雨水』や『川の水』など“自然の水”の使用を想定している人も見られました。

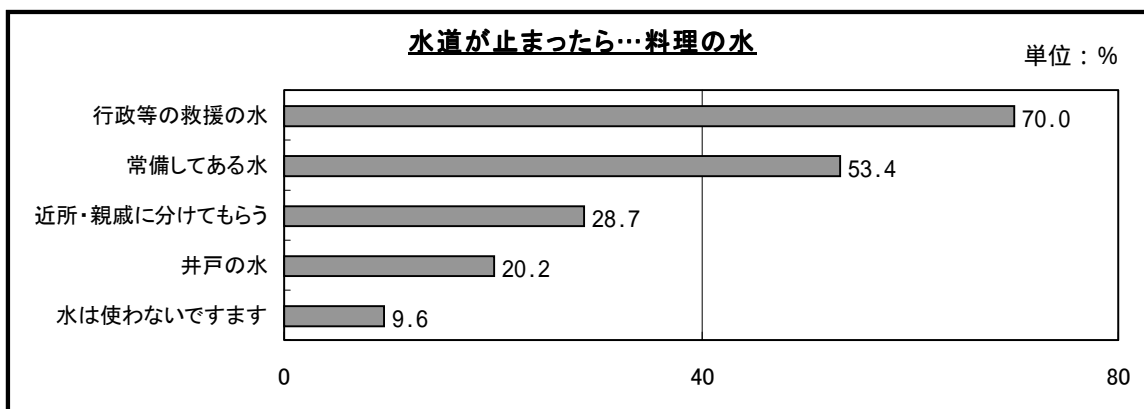
飲用に使う水（10択＋その他／複数回答）

そのまま口に入れる「飲用の水」。トップは『行政等の救援の水』で69.9%、『常備してある水』（66.2%）が僅差で続きました。



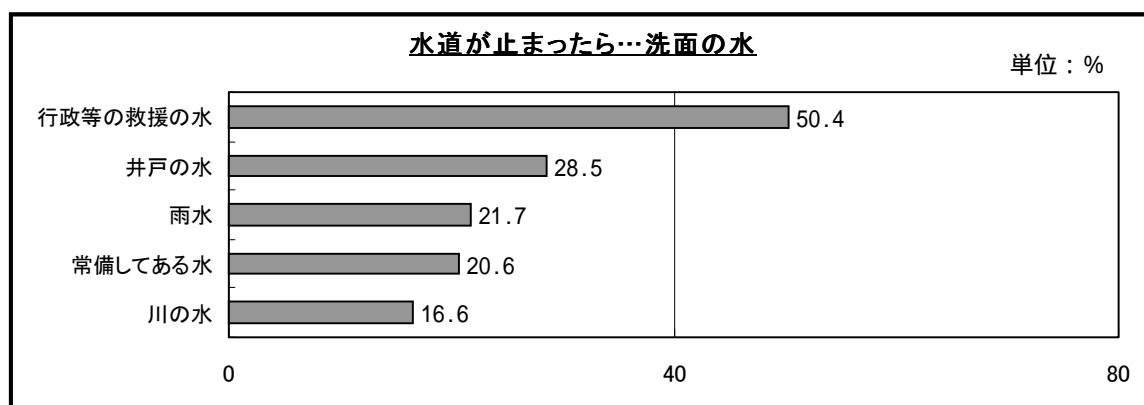
料理に使う水（10 択 + その他 / 複数回答）

加熱して摂取する「料理に使う水」もトップは『行政等の救援の水』（70.0%）。以下、『常備してある水』（53.4%）、『近所・親戚から分けてもらう』（28.7%）などと続き、おおよそ「飲用」と同じような結果でした。



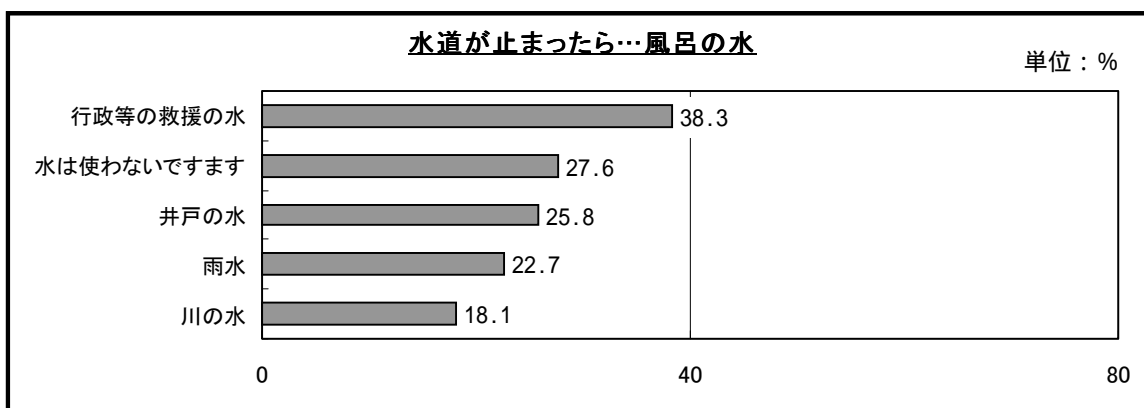
洗面に使う水（10 択 + その他 / 複数回答）

「洗面に使う水」も 1 位は『行政等の救援の水』（50.4%）でしたが、3 位『雨水』、5 位『川の水』など“自然の水”の利用も想定されています。



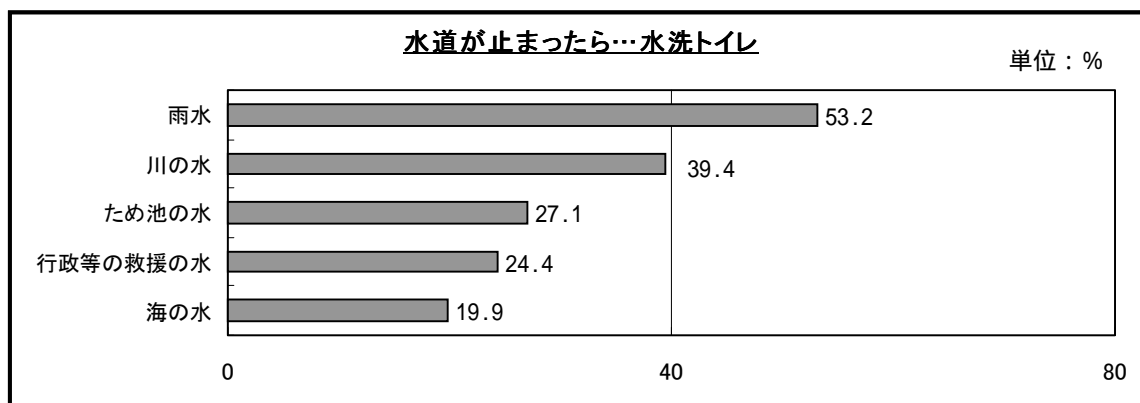
風呂に使う水（10 択 + その他 / 複数回答）

すぐに命にかかわることのない「風呂」ですが、「飲用」や「料理」と同様にトップは『行政等の救援の水』（38.3%）でした。『使わないですます』が 27.5% で 2 位に入りました。



水洗トイレに使う水（10択＋その他／複数回答）

水洗トイレの普及は、衛生的な生活をもたらしてくれましたが、水がなかったら汲み取り式よりも始末に困ります。さすがに、口にすることも、肌に触れることもない水だけあって、1位『雨水』、2位『川の水』、3位『ため池の水』と“自然の水”が上位に入りました。



Q.水の供給県（都道府県）として思いつくのは？（自由回答）

トップは東京圏が『長野』、大阪圏が『滋賀』、中京圏が『長野』

大都市圏の生活は、安全できれいな水を安定的に供給してくれる水源によって成り立っているといえます。思いつく水の供給県を聞きましたが、昨年までの調査と同様、概して居住地に近い県を挙げる傾向が見られました。

イメージする水の供給県トップ3

〔単位：％〕

	全体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	長野県	23.3	長野県	24.9	滋賀県	72.5	長野県	35.6
2	滋賀県	23.1	群馬県	14.9	長野県	8.0	岐阜県	19.3
3	群馬県	7.6	神奈川県	8.5	北海道	4.3	滋賀県	8.1

Q.もっともおいしい水が飲めると思う都道府県と国は？（自由回答）

もっともおいしい水が飲めるのは9年連続で『長野県』

もっともおいしい水が飲めると思う都道府県は9年連続で『長野県』（31.8％）、国は同じく9年連続で『日本』（47.8％）でした。

もっともおいしい水が飲める都道府県トップ3

〔単位：％〕

	全体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	長野県	31.8	長野県	31.7	長野県	38.4	長野県	25.2
2	北海道	11.9	北海道	14.2	北海道	12.3	岐阜道	11.9
3	山梨県	7.4	山梨県	8.5	兵庫県	6.5	山梨県	9.6

もっともおいしい水が飲める国トップ3

〔単位：％〕

	全体		東京圏		大阪圏		中京圏	
1	日本	47.8	日本	42.3	日本	44.9	日本	62.2
2	スイス	26.2	スイス	28.5	スイス	26.1	スイス	21.5
3	フランス	11.4	フランス	13.9	フランス	13.0	フランス	4.4